

緑化だより

No.47 平成22年2月号



紅梅 平成21年2月19日撮影

○虹色きのこ
○植物と歴史
○花だより

○研修会・イベント報告
○研修会・イベント紹介
○お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(9) 橙色 その2

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがああります。

ダイダイガサ(橙笠)

鮮やかな橙黄色なので林内でも目を引きます。傘は橙黄色の地に綿くず状の橙色の鱗片を密布します。ひだは白色で、柄は傘と同様の鱗片に覆われます。広葉樹の倒木、落枝などに発生します。南方系のきのこであると言われていいます。食毒不明。

ニカワホウキタケ(膠帚茸)

針葉樹の腐朽材上、落葉上に発生する小型のきのこ。形からするとホウキタケの仲間のように見えますが、分類学上はアカキクラゲの仲間です。肉質は軟骨質で、乾燥すると固く収縮します。食毒不明。

シロカイメンタケ(白海綿茸)

最初は写真のように美しい鮮橙色ですが、時間がたつとほとんど白色になってしまいます。肉質も最初は柔軟ですが、しばらくすると強靱になり、乾燥するとコルク質で軽くなります。不食。



ダイダイガサ



ニカワホウキタケ



シロカイメンタケ

植物と歴史

『コケの進化とDNAから解ること (2)』

平成 21 年 12 月号 (No.45) の続き

これまでに陸上植物では被子植物(花の咲く植物)のシロイヌナズナ・イネ・ポプラ・ブドウのゲノム配列が解読されていますが、これらは約2億年以内に進化した種類で、約5億年進化をした陸上植物全体の共通性を知ることができませんでした。そこで、陸上植物の中で被子植物と最も離れた系統に属するコケ植物のゲノム解析を行ったわけです。

今回の研究成果として、作物などを含む被子植物とは大きく異なって見えるコケ植物ヒメツリガネゴケも、多くの似た遺伝子を持っていることが分かりました。ヒメツリガネゴケは乾燥耐性、強力な再生能力など、被子植物の持っていない能力を持っています。

今回明らかになったゲノム情報を用いて、これらの過程にどんな遺伝子が関与するかを明らかにすることが容易になると期待されています。

コケ植物の遺伝子解析でもたらされた情報は、例えばコケ植物から被子植物を作ることが可能になるかもしれないということや裸子植物を作ることにも可能になるかもしれないといったことをも想像させます。また、植物がたどった進化過程は、われわれの想像をはるかに超えるものであったということは、このゲノム解析の結果からも間違いありません。今日、DNA を用いたゲノム解析は日進月歩で進んでおり、数年先には、これまで常識とされてきた我々が持っている植物の知識が、大きく変わる可能性を秘めています。

花だより

マンサク・アテツマンサク マンサク科マンサク属

2月には、まだまだ寒さの厳しい時期ですが、その寒さの中でも植物は春の訪れを感じています。緑化センターでは、ソシンロウバイ・ウメ・アセビなどが開花し、春の訪れを感じることができますが、中でもマンサク・アテツマンサクは、その代表種とも言えます。それは、名前の由来が良く知られているからでしょうか。マンサクは、早春の山中で、他の木に先立って咲くことから『まず咲く』が訛ったからとも言われています。また、枝いっぱいにつける様子を穀物が豊かに実った姿にたとえた『豊年満作』からの説があります。アテツマンサクはマンサクの変種になり、岡山県の阿哲地方に因んでつけられました。両種とも花弁は黄色で紙細工のような線形が4枚あり、マンサクの萼片は暗赤紫色、アテツマンサクは黄色になります。

アテツマンサクは成葉の両面に星状毛があるのですが、毛の量や萼片の色など中間種がありますし、マルバマンサク・オオバマンサク・アカバナマンサク等の多くの変種があります。

その他、庭木などで植えられて花の香りがよいシナマンサク、常緑のマンサクからつけられたトキワマンサク(トキワマンサク属)や廿日市市大野の自生地では、県の天然記念物に指定されているベニマンサク(マルバノキ属)などがあります。



マンサク (2009/3/10 撮影)



アテツマンサク (2009/2/17 撮影)

研修会・イベント報告

1月6日(水) 『春の七草を食べよう』

春の七草は?と聞かれて『せり・なずな・ごぎょう・はこべら・ほとけのざ・すずな・すずしろ』と答えられる方は多いのではないかと思います。実体とはなかなか結びつかないという人もいらっしゃるのでは。“せり”は、セリで分かりますが、“ほとけのざ”は“コオニタビラコ”で、野生では見つけるのがなかなか大変だとのこと。

1月7日の朝に七草粥を食べるのは、正月のごちそうで弱気味の胃を休め、野菜が乏しい冬場に不足しがちな栄養素(ビタミン等)を補うためであるとか。昔からの習慣というものはよく考えられたものだと思います。

以前は、七草を刻む時に七草囃子という歌を歌っていたそうですが、ほとんど聞くことがありません。地域によって歌詞は色々違いますが、「七草なずな 唐土(とうど)の鳥が 日本の土地に 渡らぬ先に ストントントン ストントントン」4拍子の調子よい歌で、お腹の調子もよくなりそうです。今年七草粥を食べなかったという方は、来年七草囃子を歌いながら作って食べてみてください。



研修会:春の七草を食べよう

研修会・イベント紹介

○2月12日(金) 『2月の自然探勝』 10:00～12:00 管理事務所前集合

冬芽や幹肌などを中心に植物の観察会を行ないます。

講師:広島大学名誉教授 石橋 昇 先生

○2月21日(日) 『山野草寄植教室』 10:00～12:00 学習室集合 要予約 30名 ¥1,500

セツブンソウ・ユキワリイチゲなどの山野草の寄植教室です。山野草の育て方を学んで、実際に寄植を行ないます。初心者の方から山野草に自信のある方まで、どなたでも参加できます。

講師:森林インストラクター 長井 稔 先生

○2月28日(日) 『ジャンボしいたけ植菌教室』 10:00～12:00 学習室集合 (予約の受付は終了)

ジャンボしいたけについて学習し、植菌作業を行ないます。ほだ木は持ち帰り、自宅でジャンボしいたけを育ててみましょう。上手に管理すれば、秋には収穫できます。

講師:日本きのこセンター 入江 淳人 先生

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○緑化ポスター原画コンクール入賞作品展 開催中～2月5日(金)迄

○野鳥写真展 2月7日(日)～3月7日(日)

野鳥愛好家が撮影した、野鳥の様々な瞬間を撮影したベストショットをお楽しみ下さい。

○冬のバードカービング展 開催中～平成22年2月28日(日)

◎ 冬期は、積雪・凍結にお気をつけ下さい

冬期は、場所や時間により積雪や凍結も見られます。お越しの際は、滑り止めを携行するか、冬用のタイヤでお越し下さい。

◎ 平成22年度緑化センターオリジナルカレンダーについて

現在、平成22年度緑化センターオリジナルカレンダーを作成しております。友の会の皆さまには、出来次第、配布いたします。友の会に入られていない方は、この機会にぜひご入会下さい。

◎ 清掃ボランティアを募集しています

毎月第2水曜日に2時間程度の活動で、落ち葉清掃などを行なっています。健康を維持するためにも外に出て気持ちの良い汗をかいてみませんか。

◎ 緑化センター『サポーター会員』を募集しています

引き続き、緑化センターサポーター会員を受け付けています。会員には、緑化センター内で撮影した花の写真を印刷した名刺をお渡します。希望者には、裏面にご本人の連絡先を印刷いたします。ご自身の名刺代わりに利用していただき、あわせて緑化センターを紹介して下さい。知人やご友人にも紹介していただけたらと思います。費用は無料で、無くなれば再配布いたします。一度に30枚(30種類の花)を配布しています。



表面(30種類あります)



裏面(ご自身の連絡先)